

令和5年度 第1回教育委員会定例会

日時、場所及び出席者

日時及び場所	出席者	
令和5年4月11日(火)	教育長 坂元 裕人	教育総務課長 堀留 豊
午後2時00分	教育委員 田原 正人	学校教育課長 川崎 史明
↓		
午後3時50分	教育委員 葛迫 幸平	社会教育課長 大山 昭
第2研修室	教育委員 田之上 厚美	国体推進課長 米田 昭嗣
	教育委員 福里 由加	

会議要旨

- 1 開 会
定刻、定足数に達しており、令和5年度第1回教育委員会定例会を開会した。
- 2 令和4年度第12回定例会会議録の承認について
承認
- 3 議 事
報告第2号 教育委員会職員に係る令和5年4月1日付け人事異動及び
令和5年3月31日付け退職者について
報告第3号 鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の
一部を改正する要綱について
報告第4号 市スクールカウンセラー、市スクールソーシャルワーカー、
市スクールガードリーダーの委嘱について
報告第5号 鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員
の委嘱について
報告第6号 令和5・6年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について
議案第8号 垂水市教育委員会外部評価委員の委嘱について
- 4 その他
- 5 委員並びに教育長及び課長報告
- 6 閉 会

議 決 事 項

件 名	提案理由	審議の状況	採決の次第
<p>報告第2号 教育委員会職員に係る令和5年4月1日付け人事異動及び令和5年3月31日付け退職者について</p>	<p>退職者、転出者、転入者等を報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第3号 鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について</p>	<p>垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第4号 市スクールカウンセラー、市スクールソーシャルワーカー、市スクールガードリーダーの委嘱について</p>	<p>令和5年度の市スクールカウンセラー、市スクールソーシャルワーカー、市スクールガードリーダーの委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 委嘱期間：令和5年4月1日から令和6年3月31日まで。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>報告第5号 鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について</p>	<p>鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 委嘱期間：令和5年3月16日から令和6年3月31日まで。</p>	<p>特記事項なし 特記事項なし</p>	

<p>報告第6号 令和5・6年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について</p>	<p>令和5・6年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したこと、及びその内容について報告するものである。 委嘱期間：令和5年4月1日から令和7年3月31日まで。</p>	<p>特記事項なし</p>	
<p>議案第8号 垂水市教育委員会外部評価委員の委嘱について</p>	<p>垂水市教育委員会外部評価委員の委嘱について、同委員会設置要綱第3条の規定により、新たに委嘱する委員について、承認を求めるものである。 委嘱期間：委嘱の日から令和7年3月31日まで。</p>	<p>特記事項なし</p>	

議 事 内 容 等

<p>3 議 事</p> <p>教育総務課長</p> <p>教育長</p> <p>学校教育課長</p> <p>教育総務課長</p>	<p>報告第2号 教育委員会職員に係る令和5年4月1日付け人事異動及び令和5年3月31日付け退職者について</p> <p>退職者、転出者、転入者等を報告するものである旨、及びその内容について報告。</p> <p>講師未定とあるが状況が変わっていたら説明してください。</p> <p>講師1名欠については、事務所と話をし、急ぎ入れていただくよう調整しているところである。</p> <p>報告第3号 鹿児島県立垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について</p> <p>垂水高等学校生徒通学費等補助金交付要綱の一部を改正する要綱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容につ</p>
---	---

	いて説明。
田原委員	補助金管理者については、校長ではなく、どなたか事務とかそういう方になるということですか。
教育総務課長	今回の改正の背景ですが、県の監査でこの取り扱いで学校長という名称が適切でなく、補助金管理者という名称で運用した方がよいと指摘があったと聞いている。ただ、実際には補助金管理者は学校長になるものと思っている。
田原委員	保護者が申請しないでいいのか。垂水市から補助金を受けているという自覚があるのかと思う。
教育総務課長	学校側で保護者や生徒の申請によって支出している構図になっていると把握している。また、自覚の部分については、資格取得や東進スクールの支援があるが、意欲ある生徒が増えれば補助の総額も増える形になるので、そこで評価できる部分があるかと思う。
教育長	補助金については保護者から「ありがたい」という声もあり高い評価をいただいている。
	報告第4号 市スクールカウンセラー、市スクールソーシャルワーカー、市スクールガードリーダーの委嘱について
学校教育課長	市スクールカウンセラー、市スクールソーシャルワーカー、市スクールガードリーダーの委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容について説明。
教育長	この制度はありがたい制度であり、いずれも子どもの心に寄り添うとか、子どもの安全、安心を担保するとか学校の大きな応援団であると思うところである。
	報告第5号 鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について
社会教育課長	鹿児島島津家墓所（垂水島津家墓所）災害復旧検討委員会委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	工事の完了は令和5年度中か。

社会教育課長	繰り越しで対応するので年度末までということはないと聞いている。
教育長	修復が完了したら写真などでこのようになったと説明してほしい。
	報告第6号 令和5・6年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について
社会教育課長	令和5・6年度垂水市スポーツ推進委員の委嘱について、教育長の臨時代理により決定したことを報告するとともに、その内容を説明。
教育長	会長の任期について説明してください。
社会教育課長	垂水市では令和4年で一旦任期が切れるので令和5、6年としているが、肝付地区の方は令和4、5年度となっており、市の会長が肝付の副会長をされていることから、全員同意のうえで市の会長を継続して欲しいという意向があったので会長を引き続きされることになったところである。
教育長	女性が増えているので、一応そこは推薦をしていただくように。
社会教育課長	話はしているところであり、まだ増やしていきたいと考えている。
教育長	名簿を見ると年齢的なバランスも非常にいい。若い人から全体を見られる方もいる。いろんな発想あるいは経験を生かしながら進めてほしい。 国体推進課長に聞くが、各地区のスポーツ推進委員は、国体、県民体育大会、肝属地区のスポーツ大会の役員などをされているのか。
国体推進課長	国体ではボランティアとして参加いただいている。また、各地区のスポーツ振興、特に校区の運動会などはこの方々が中心となってやっていただく形になっている。
教育長	アフターコロナでスポーツ推進委員の役割はさらに重要になってくる。15名プラス大野はまたあとで決まるとのことだが、新たな方々も含めて、ご尽力いただければと思う。
	議案第8号 垂水市教育委員会外部評価委員の委嘱について (非公開)
4 その他	
田之上委員	学校の支援員ですが、どういう状況か。小学校と中学校を兼務されている方が今回いると聞いている。

学校教育課長	<p>本市の場合は小規模校が多く、その小規模校の中で支援を必要としている子どももあり、毎日というのは難しいところがあるので、学校間の兼務という形で配置を行っている。この支援員の数は、おそらく他市町からするとかなり手厚い配置がなされていると思っている。</p>
教育長	<p>支援員の方々もいろんな思いを持っている。そこはいろんな背景があり、本人も納得の上でという部分もあろうかと思う。逆に不安や不満もあるかもしれないので、担当指導主事に聞いてみたいと思う。</p> <p>今回、兼務という形を取り入れているが、苦勞をおかけしているという部分がある。本当は単独校が望ましく、その方がいいと学校教育課でも話題にしているところである。</p>
5 委員並びに教育長及び課長報告	<p>委員並びに教育長及び課長報告に入る。</p>
田原委員	<p>卒業式と入学式に参加したのでその報告を行う。</p> <p>3月23日、水之上小学校の卒業式に参加した。3年ぶりの儀式への参加になった。久々に告辞を読んで少し緊張した。卒業生は15名。在校生は1年生から5年生まで全員参加し、お別れの言葉や歌の声が大きくはっきり発声されていた。式は厳粛できりっと締めりのあるいい式であった。この子たちは12月に白山登山と一緒に行ったよく知っている子どもたちだったので、この子たちの卒業式を見届けられてよかったと思った。</p> <p>4月6日、垂水小の入学式に参加した。卒業式の日も雨だったが入学式も小雨の降る中で、体育館の天井が高くライトの明かりが届きにくいのか室内が少し暗かったが、ステージは明るく、ステージの下には黄色い花が飾ってありとても綺麗であった。新1年生は61名。担任に導かれて入場する姿は緊張の中にもほほえましさを感じられた。祝辞の中にもある「入学おめでとうございます」の聲がかかると1年生が一斉に「ありがとうございます」と返礼する姿はとてもかわいくて、壇上で告辞を読んでいるときも「聞いてくれている」とこちらもうれしくなった。こうした子どもたちが入学して、どのように成長していくのか今後楽しみに見届けていきたいと思う。</p> <p>3年ぶりに2つの儀式に参加して、改めて入学式、卒業式というのは、学校にとってどんなに大事なものか、また、本人だけでなく、家庭や家族や社会にとってもけじめをつける新たなスタートとなる式だということ強く感じた。</p>
葛迫委員	<p>垂水小学校の卒業式に参加した。</p> <p>式辞の中で校長先生が野口英世のことを話されていた。子どもの頃に大火傷した野口英世は黄熱病の研究をしながらも、自分も高熱病で亡くなったこと、ノーベル賞の候補にも上がったこと、そして、自分の体が不自由でも、自信がなくても、自分の目標にひたすら突き進む子どもになってく</p>

ださいというようなメッセージであった。卒業証書を手渡しするときに登壇の右側の壁に一人一人の夢が投影されていた。医者になりたいというのはなかったが、多種多様な職種が書かれていた。一番多かったのはちょうどWBCのころなのでその影響もあるのか野球選手であったりとか、プログラマーであったりとかが多かった。卒業生は44名。欠席者もなく全員が卒業式に参加できたことがよかったと思った。コロナ禍の中で、卒業式・入学式を来賓として3年間出席できず、やっと出席できたこと、そして子どもたちのこの巣立った姿を見て安堵感を感じたところである。新型コロナウイルス感染防止に伴って、来賓の出席が垂水市長、教育委員会、PTA会長の3名であったが、子どもたちはマスクを外したり、つけたり、そんな感じの忙しい卒業式であった。

入学式は柘原小学校に行きました。まだあどけない、元気いっぱいの4名の入学式であった。新しく古仁屋小学校から赴任された校長先生はこの式辞の中で、一人一人の児童の名前を呼んで「柘原小学校ではあなたたちを待っていました。あなたたちの後ろに座っているお兄さんやお姉さんもみんな待っていました。わからないことや困ったことがあれば、後ろに座っているお兄さんお姉さんが教えてくれます。また手伝ってくれます。そして、横に座っている先生方は勉強やいろんなことを教えてくれるので、安心してください」と話されていた。お祝いの言葉では、児童代表として2年生全員で「一緒にすばらしい柘原小学校にしていきましょう」と新入生を歓迎していた。コロナ禍ということもあり30分ほどで式典は終わったが父兄のほか来賓の方が10数名おり、楽しく新入生を迎えることができたと思った。

4月7日の南日本新聞に垂水史談会の瀬角龍平さんが垂水の記録を自費出版したということで読んでみた。少し難しい。その内容は垂水島津家の家臣伊地知季度（すえかた）が、天保9年に著した『櫻島燃記』、垂水学校を起こした高崎正風が明治2（1869）年に著した『學則』、天保9（1838）年から明治2（1869）年に垂水麓の士族が読んだ和歌、手貫神社の収蔵品『奉納和歌』を現代語に訳したということが掲載されており、本人は「垂水に残る古文書や和歌を身近に感じる一冊になってほしい」ことを語っていました。

田之上委員

松ヶ崎小学校の卒業式に伺った。彩り豊かな花に囲まれた体育館に在校生はじめ、来賓、多くの地域の方々、ご臨席のもとに3名の卒業生を送り出す式が行われていた。お別れの言葉では、歌を織りまぜて卒業生と在校生が言葉のかけ合いを久しぶりに見た。長い言葉をよく覚えていて立派だなと思うことでした。PTA会長の祝辞の中の話ですが、この3人の卒業生は小さい頃から、本当に仲良く育ってきた様子で、入学式の日思い出なども語られて、すごく温かい思いが溢れていた。3人が本当に地域や保護者や皆さんに愛情深く見守られて育ってきたのだということを感じる卒業式の雰囲気でした。

入学式は新城小学校に行きました。入学式も雨でしたが、やはり多くの地域の方々が出席されて、4名のかわいい新1年生を迎えました。会場の体育館は明るい色みで、設営も低い目線でされていて新入生に対する優し

さを感じた。校長先生の式辞では、何回も4人の名前が登場して、すごく歓迎されている様子がうかがえた。自分の名前が出てくると「はい」という子がいたりして、本当に何か微笑ましい様子であった。また児童代表の言葉は、紙ではなくタブレットを持って壇上に上がり、さすがGIGAの先進校だと思ふことでした。校歌斉唱の伴奏は3年生の児童が行いました。力強く堂々としたピアノ演奏ですごく上手でした。

今回私も久しぶりで卒業式、入学式と、続けて出席したのですが、厳かな雰囲気の立派な卒業式、またやさしい雰囲気のほほえましい入学式と子どもたちが6年間かけて成長する著しい成長というのを改めて実感することができた。先生方をはじめ、周りの私たち大人の責任が本当に大きいということを改めて痛感した。

教育長

最後の言葉がずしりと重たく、やはり大人の責任というか、ある節目にそういったものを大人の都合で止めるのはよくないことだと感じた。また、卒業式・入学式に参加して見える部分、あるいは感じる部分というのは改めてあると思った。

まさに大きく育てようという目で送り出す卒業式、入学式はやはり明るさだったり、優しさだったり、子どもたちが安心して小学校・中学校で成長できるような、そういう雰囲気を醸し出すという入学式、それぞれ重たい意味がある。ただそれをセッティングするのも実は大人である。子どもの意志ではどうしてもできないという部分があり、だから見えなかった部分の2年間はどんな卒業式だったのだろうか、あるいは入学式だったのだろうか、その時の子どもたちの様子は、心情は、というところを考えるとやはり辛い部分がある。どうしても少人数で限られた中での卒業式・入学式は、ある意味寂しい卒業式・入学式だったのかもしれない。これからそういうことがないように、節目のこういう式は大事に思いを持って、我々も参加していきたいと改めて思うところであった。

福里委員

3月、新城小学校の卒業式に参加した。私は教育委員になって初めての卒業式でした。卒業式は卒業生も立派な態度で参加していてすごくいい式でした。入学式は松ヶ崎小学校に行かせてもらった。地域の方がたくさん出席しており、校長室も人で溢れている感じであった。新入生は2人でしたが1人は卒園生ですごく立派に座っているなあと思ってびっくりしました。中学校の卒業式では卒業生がふざけた場面があったと聞いた。厳かな式でそんな場面があり先生方やほかの生徒たちも残念だったのだろうなと思った。

私の息子も娘もそれぞれ進級して中学校2年生と5年生になり、2人とも張り切って登校している。春休みに娘もタブレットを持ち帰り「キーボー島」で日本地図を覚える勉強を親子で取り組んだ。以前はローマ字が苦手なタイピングもなかなかできなかったが、学校教育課の今村先生から「キーボー島」を薦められて、娘に話したらちょうど学校でも取り組んでいるとのことでした。全然できなかったローマ字打ちでのタイピングもできるようになっており驚きました。タブレットを有効活用した成果だと思ふあ

教育長	<p>りがたく思います。</p> <p>最後ですが、小学校の離任式である先生があいさつの中で「大変なのは何とかです」と個人の名前を言ったらしく、冗談で言われたのかもしれませんが必要だったのかなと感じました。</p> <p>中学校の卒業式の件ですが、私が校長だったら1人目で止めます。もう1回やり直しをしようかとその場で言います。「はい、君、やり直し。ここは厳粛な卒業式の場だよ」と。厳しめの言葉を言ったらいいと思う。それは卒業生にも保護者にも見せるべきだと私は思った。私だったらそうする。やってはいけないことの線引き。そういったものは子どもたちの中にきちっと引かれると私は思っている。</p>
福里委員	<p>保護者も面白がってやってくれたみたいなき感じだったので、そういう保護者の考え方、私は絶対指導すべきだと思います。だけど、残念なのは今度の卒業式はこんな感じになり、真面目にしていた人も悪く見られてしまって、それが何かかわいそうだと感じた。</p>
教育長	<p>そうになってしまうことが残念である。さっき私が言った1人で止めるという、まさに学校の方の教育の場になる。それは親も含めて。そのようにうまく機転を利かした指導ができればと思う。今後、そのようなことはないと思う。今言ったような手を打つかどうか。厳粛な雰囲気の中でやっていたので、まわりは引きずられなかった。それは幸いであった。これは目の前の卒業生ではなく保護者を一つのターゲットにしたものと思う。その後、保護者がその子達に対してどう関わり、また、指導したか、そこが問われるところである。</p>
福里委員	<p>持久走大会でもあったと聞いている。</p>
教育長	<p>私の方から少し時間をいただいて、お話をさせてください。</p> <p>まず、年度初め、非常に慌ただしい時期である。新型コロナの感染者も急減しまして、世の中はアフターコロナということで、海外からの旅行客が日本の観光地に向かっているというテレビ報道がある。とはいえ学校は慎重である。いつから対応が変わるかであるが5月8日の連休明けに新型コロナウイルスが2類から5類に変わると聞いているところである。</p> <p>垂水市の新年度のスタートといえば、私は「おんだんこら」だと思っている。今年までは神事だけであるが、来年の「おんだんこら」を楽しみにしているところである。</p> <p>次に入学式であるが中学校の校長は式辞の中で、校訓の意味をわかりやすく、新入生、保護者に話をしておりこれは初めてのことであった。校訓が一番大事なことであるが、何をもって校訓があるのか、その意味は何な</p>

のか生徒は知らないと思う。それを生徒のみならず保護者にもしっかりメッセージとして伝えることは大事なことである。もう一つは校章。校章の意味と同様に具体的に伝えていた。これもやはりいいと思った。

私は校長会で学校経営の3点セットの話をするが、これは校訓・校章・校歌のこと。この3つを大事にしながら校長は学校経営をすべきということの話をするが、まさにそのうちの2つをしっかりと生徒に届けてくれた。校歌を歌い込みすることで、子どもが自分自身の解釈で、また、先生が解釈する部分もある。感じ取ってほしい。自分も歌いながら素晴らしい校歌、曲調も新しいという思いで聞いていた。

小学校は牛根小に出席した。教育委員の皆さんの方からあったとおり、子どもたちの不安をとにかく払拭して、学校の楽しさを伝えていた。また、集団生活の中のいわゆるルールだとか約束事、例えば交通ルール、あるいは仲良くしましょう、勉強も頑張りましょうといったことを語りかけるように話をされていた。学校行事の大切さ、重さといったようなものを私は同様に感じたところである。

次に3点目、朝の立哨指導、あいさつ運動ですが、今、連日のように市の職員がポイントとなる交差点であいさつ運動と同時に立哨指導をしている。市は市で子どもたちの安全安心を守るために立哨指導をしてもらっているのありがたいと思っている。また、地域学校協働活動の方々もあいさつに参加いただいております、本当に感謝しかない。子どもたちも安心していいスタートが切れたと思っている。

今年は特別国体が行われる。どのように成功に導くかを大事にしながら、4課長しっかり連携して進めていきたいと思っている。

教育委員の皆様方も今後デモンストレーションもあるので、ぜひご覧いただきたいと思う。

次に教育委員会の果たす役割について、年度当初なので話をしておきたい。

1番目は、教育の施策や事業の方向性をしっかり示すこと。私どもの思いを示すことで様々な事業が展開されることになる。

2番目は、教育委員会はあくまでも脇役であり、主役は学校、子どもだということ。ドラマも映画もそうだが主役が輝き、引き立つためには、いい脇役がいるから。我々はそういうつもりで仕事をしていきたいと思う。主役を伸ばすため、輝かせるためにということである。

3番目は、ともに悩み考えること。別の言葉で言うと寄り添うこと。そうすることで、打開策が出たり、あるいは前へ一歩進むためのヒントが得られたりすると思うので、そういう意味では情報共有というのは非常に大事であると思う。

4点目が、結果、原点、創造を具現化するところ。教育行政を進めていく上で、今年度もどう形にしていくか、しっかりと4課長と語り、進めていきたい。

5点目は、課長、補佐、係長、主査あるいは主事といるが、自分自身をしっかりと磨くところであること。つまり、人生修行の場でもあるということ。一人一人がしっかりと成長していくということは大事である。そういう意味では、やはり職員にとって、課長の言動というのは非常に重たい方がいい方向に引っ張ってもらっていると思うので、ぜひ、ご自身のカラー

を出しながら、職員を導いていただければありがたいと思う。

要するに市民のすべての方々にとって今年度、明るく希望に満ちたそんな年になるように教育委員会は、学校や関係機関等と連携しながら前に進んでいきたいと思っている。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長
国体推進課長

3月12日から4月10日までの主な行事等について各課長が報告。
併せて、4月12日から5月10日までの行事予定についてお知らせした。

6 閉 会

